

Press release

Stuttgart (Germany) / Tokyo (Japan), September 29, 2025

MAHLE Supervisory Board に新 Chairman が就任

- 現 Chairman の Heinz K. Junker は 2026 年 1 月 1 日付けで辞任、同時に Supervisory Board から退任。後任には Michael Macht が就任。
- 新 Chairman となる Macht は、Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG の CEO および Volkswagen AG の Board of Management メンバーを歴任後、2020 年に MAHLE Supervisory Board メンバーに就任。
- Junker は 2015 年に MAHLE Supervisory Board の Chairman に就任。

MAHLE Supervisory Board は、2025 年 9 月 25 日に行われた会議で Michael Macht を新 Chairman に任命いたしました。これまで 10 年にわたり Chairman を務めてきた Heinz K. Junker は、本年末をもって現職および MAHLE Supervisory Board を退任し、2026 年 1 月 1 日付けで Macht が引き継ぐこととなります。Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG の CEO および Volkswagen AG の Board of Management メンバーを歴任した Macht は、2020 年に MAHLE Supervisory Board メンバーに就任しています。

「30 年近くにわたり、CEO そして Supervisory Board の Chairman として MAHLE に貢献できたことを大変光栄に感じています。グループ再編後の組織も軌道に乗り、グループ戦略である MAHLE 2030+を基軸に、製品ポートフォリオの明確な体系化も完了しました。MAHLE グループは未来に向けた体制が整っています」と、退任を控えた Supervisory Board 現 Chairman の Heinz K. Junker は述べています。「全従業員の皆さん、Management Board、そして同僚の皆さん、長年にわたり信頼を寄せてくださり本当にありがとうございました。厳しい時代ではありますが、MAHLE には素晴らしい未来があることを願っています。後任として Chairman の職を引き受けてくださった Michael Macht 氏に感謝申し上げますと共に、この困難な職務に臨まれるに際しその手腕が遺憾なく発揮されることを願っています」

Michael Macht は、自動車業界で確かな実績を積んできました。独・Stuttgart 出身の Macht は、Stuttgart University で博士号を取得したメカニカルエンジニアです。1991 年に Dr. Ing. h.c. F. Porsche AG に入社しキャリアをスタートさせると、Porsche および Porsche Consulting で様々な要職を歴任。1998 年に Porsche AG の Board of Management メンバーに、そして 2009 年には同社の CEO に就任します。2009 年か

ら 2014 年にかけては、独・Wolfsbur に本社を構える Volkswagen AG の Board of Management メンバーを務めています。今回、MAHLE Supervisory Board の新 Chairman に就任するにあたっては、後継者育成計画に基づき、Heinz K. Junker による直接指導の下、これまで数か月をかけて万全な引継ぎ準備が進められてきました。

「MAHLE Supervisory Board を代表して Heinz K. Junker 氏に感謝申し上げると共に、Chairman としての職責を全うされたことに心から敬意を表します。Supervisory Board の Chairman として長年にわたりでリーダーシップを発揮され、多大なる献身と豊富な知識、そして泰然自若とした対応で困難な局面を乗り越え、MAHLE が未来志向型企业へと発展する基礎を築いていただきました」と Michael Macht は述べています。「Junker 氏の末長いご多幸をお祈り申し上げます」

「この度 MAHLE を退職される Heinz K. Junker 氏は、当社のために多大なる尽力をされた方です。Junker 氏がこれまで 30 年にわたり MAHLE を導いてきた類まれなる情熱と献身に、MAHLE 全従業員と Management Board を代表して感謝申し上げます。Junker 氏はその先見性と不断の尽力で、MAHLE の成功に大きく貢献されました。近年は当社の変革を細やかな気配りで主導されてきました」と Management Board Chairman 兼 CEO の Arnd Franz は述べています。「Management Board と緊密な協力関係を築き、そして信頼を寄せてくださったことに感謝申し上げます。困難な局面においても、Junker 氏の知識や経験、そしてサポートに全幅の信頼を置いてまいりました。MAHLE チーム一同より、今後ますますのご成功を心よりお祈り申し上げます」

「従業員を代表し、Heinz K. Junker 氏の長年にわたる信頼とご協力に心よりお礼申し上げます。今後のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます」と Supervisory Board の Deputy Chairman である Boris Schwürz は述べています。「Michael Macht 氏と建設的な協力関係を築き、現在の厳しい環境下に対応しながら、未来に向けた MAHLE のポジションの確立を進めていきたいと考えています」

Heinz K. Junker は RWTH Aachen University で博士号を取得後、1996 年に MAHLE に入社し Management Board メンバーに就任。そのおよそ 6 カ月後に CEO に就任し、2015 年まで同職を務めます。この間、Junker は MAHLE の開発力の強化に注力し、祖業であるピストンから製品ポートフォリオを飛躍的に拡大させるなど手腕を発揮。その結果、売上高を 8 倍となる 115 億ユーロに大幅に増加させ、MAHLE を世界的テクノロジー企業へと発展させることに成功しました。同時に、Junker は MAHLE 創業以来最大規模の M&A 案件となる、旧 Behr Group の吸収合併を主導し、成功させています。当買収により、戦略的重要分野であるグループの熱管理事業の強化を図っています。当事業を担う「サーマル&フルードシステムズ事業部」の売上高は、今やグループ連結売上高の 50% を占めるまでに成長しています。Supervisory Board

Chairman 就任後の Junker は、現在のグループ戦略である「MAHLE 2030+」の策定に重要な役割を果たし、電動化、熱管理、持続可能な内燃機関などの未来志向分野を核に据えながら、製品ポートフォリオの再構成を図り、最近ではグループの再編成を完了させています。

報道関係者の皆さまへ：本プレスリリースと関連画像は「MAHLE Newsroom」
(<https://newsroom.mahle.com/press/en/>) でご覧いただけます。

画像の著作権：MAHLE GmbH



2026年1月1日付けで
MAHLE Supervisory Board の
新しく Chairman に就任する
Michael Macht



2025年12月31日付けで
MAHLE Supervisory Board を
退任する Heinz K. Junker

About MAHLE（本社：ドイツ／日本支社：東京都豊島区）

MAHLE（マーレ）は、今日のグローバルな自動車業界において、乗用車と商用車両分野の開発パートナーおよびサプライヤーです。1920年に設立されたマーレグループは、電動化と熱管理の戦略的分野に焦点を当て、将来の「Climate Neutral」なモビリティの実現に取り組んでいます。また、燃料電池や水素などの再生可能な燃料で稼働するクリーンな燃焼エンジンなど、炭素排出量をさらに高効率に削減するための技術にも焦点を当てています。

現在、世界中の2台に1台がマーレのコンポーネントを搭載しています。マーレは世界中約68,000名の従業員を135の生産拠点や11のテクノロジーセンターに配置し、28か国に拠点を置いています。また、2024年には約117億ユーロの売上を計上しました。

日本においてマーレは、幅広い専門知識を活用しながら今日まで50年以上事業を継続して参りました。またアジア太平洋地域の本社機能を担うことで、日系大手自動車メーカーの国内外すべてのビジネスをサポートしています。現在、日本のマーレグループは国内17拠点に約2,600名の従業員を擁しています。

マーレジャパン公式サイト：<https://www.jp.mahle.com/ja/>
#weshapefuturemobility